

SHIMAZU 紫外・可視・近赤外分光光度計 UV-3600+

マルチパーパス大型試料室ユニット MPC-3100+ 可変角絶対測定装置

取扱説明書

- ① 大型試料室ユニット本体から出ている PbS セル信号接続ケーブルと PM 信号接続ケーブルを UV-3600 本体横のコネクタにしっかり接続する。
- ② UV-3600 本体の試料室を開け、透過率測定用のセルホルダの真ん中のつまみを回し取り外す。
- ③ 透過率測定用のセルホルダの代わりに大型試料室ユニット付属の光学系ユニットを取り付け、試料室をしっかりと閉める。
- ④ UV-3600 本体右側面の電源スイッチを ON にする。
- ⑤ PC の電源を入れる。
 - 1) デスクトップ上の「MPC.smd」のアイコンをダブルクリックし、UVprobe を起動。
 - 2) ツールバー上の「装置」→「設定」→「初期化」を開き、「高速初期化」にチェックし、「OK」をクリック。
 - 3) アウトプットウィンドウの下にある装置制御ボタンバー中の「Connect」をクリック→「OK」し、装置と PC を接続、システム初期化を行う。
 - 4) 初期化が完了すると、「OK」ボタンが表示されるのでクリック。
 - 5) ツールバー上の「編集」→「測定メソッド」→「測定」タブから「波長範囲」、「スキャンスピード」、「サンプリングピッチ」を設定。{推奨: スキャンスピード(中速)、サンプリングピッチ(オート)}
 - 6) 次に「装置パラメータ」タブを選択し、「測光値の種類」、「スリット幅」を選択し「OK」をクリック。{推奨: スリット幅(20)}
- ⑥ Baseline 補正を行う。
 - 1) 大型試料室ユニット本体の試料室を開け、試料台と検出器がともに 0° の位置になっているか確かめ、ふたを閉める。
 - 2) アウトプットウィンドウの下にある装置制御ボタンバー中の「Baseline」をクリック。
- ⑦ 大型試料室ユニット本体の試料室を開け、サンプルをセットする。
 - 1) アウトプットウィンドウの下にある装置制御ボタンバー中の「Go To WL」をクリックし、波長を 540nm に設定し、「OK」をクリック。
 - 2) サンプルが光の当たる位置にセットされているか確認する。(弱い緑色の光なので、部屋の電気を消して行う)

- ⑧ 「Start」をクリックし、測定する。

立ち下げ方法

- ① 大型試料室ユニット本体の試料室を開け、サンプルを取り出し、サンプル台と検出器の角度を元の 0° に戻す。
- ② 大型試料室ユニット付属の光学系ユニットを取り外し、透過率測定用のセルホルダを取り付け、ふたを閉める。
- ③ アウトプットウィンドウの下にある装置制御ボタンバー中の「Disconnect」をクリックする。
- ④ ツールバー上の「装置」→「設定」→「初期化」を開き、「高速初期化」のチェックをはずし、「OK」をクリックする。
- ⑤ 「MPC.smd」ウィンドウを閉じる。
- ⑥ UV-3600 本体右側面の電源スイッチをOFFにする。
- ⑦ 大型試料室ユニット本体から出ている PbS セル信号接続ケーブルと PM 信号接続ケーブルを UV-3600 本体横の接続を切る。
- ⑧ PCの電源を切る。